

韓国語の被動態についての小考

金 仁 和

- 1 研究の目的と対象
- 2 韓国語の被動態の概要
- 3 韓国語の被動態についての論議
- 4 韓国語の被動態の日本語との対照
- 5 まとめと今後の課題

1 研究の目的と対象

主語と述語の関係をはじめ、目的語と述語の関係、及びこれらの関係に緊密に関連する体言成分との関係などを表す動詞の形態がある。韓国語では、これらのうち、能動、被動、使動を態に関わる文法範疇として見る。態は、文の構造を決定、変化させる要因として、形態論的にも統辞論的にも重要な研究課題とされている。韓国語の態は言語、研究者によりその規定範囲が異なるが、動作主体を主語、動作対象を対象語で表す「能動態」、動作対象を主語、動作主体を対象語で表す「受動態」、動作にとって第3者である指示者や許可者を主語、動作主体を対象語で表す「使動態」と言われている。¹ 本稿では、能動態に基づいて派生したと見られる被動態と使動態のうち、被動態を対象とし日・韓両言語の相違点を究明する。

現在までの韓日両言語の被動態に対する対照研究は、主に意味機能の比較である。しかも、日本語の受身表現を韓国語に対比させるという方向なので、韓国語の被動態の全般的な把握と日本語との対照は困難である。そこで、本稿では、韓国語の被動態を対象とし、その体系と特徴を日本語の受身表現と対照しながら考察する。

韓国語と日本語の被動態は使用範囲や意味機能の幅が違うので、両言語の被動態を対応させるときに問題点が生じる。

1-1) -J1 A가名前を書く。²

-K1 A-가 이름-을 쓰-다.
 A-ga ir+m-l ss+-da.
 A-主格助詞 名前-目的格助詞 語幹-語尾

-2) -J2 名前がAに(よって)書かれる。

-K2 이름-이³ A-에 의해 쓰-이-다.
 ir+m-i A-e +ihe ss+-i-da.
 名前-被動主格助詞⁴ A-被動相對主格助詞 語幹-被動補助語幹-語尾

-K3 이름-이 A-에 의해 써-지-다.⁵
 ir+m-i A-e +ihe sseo-ji-da.
 名前-被動主格助詞 A-被動相對主格助詞 語幹-被動補助動詞句

例文の-1)は能動文であり、-2)は被動文である。例1)から、韓国語の被動形態は二つがあることが分かる。この二つの形態は、被動可能なすべての用言において形成できるわけではない。例2)と3)は、一つの被動の形態しか形成できない場合である。

2-1) -J1 A가ドアをあける。

-K1 A-가 도어-를⁶ 열-다.
 A-ga doeo-r+l yeol-da.
 A-主格助詞 名前-目的格助詞 語幹-語尾

-2) -J2 ドアがAに(よって)あけられる。

-K2 도어-가 A-에 의해 열-리-다.⁷
 doeo-ga A-e +ihe yeol-li-da.
 名前-被動主格助詞 A-被動相對主格助詞 語幹-被動補助語幹-語尾

3-1) -J1 A가皿を割る。

-K1 A-가 접시-를 깨-다.
 A-ga ceopsi-r+l kkae-da.
 A-主格助詞 名前-目的格助詞 語幹-語尾

-2) -J2 皿がAに(よって)割られる。

-K2 접시-가 A-에 의해 깨-어 지-다.
 ceopsi-ga A-e +ihe kkae-eo ji-da.
 名前-被動主格助詞 A-被動相對格助詞 語幹-被動補助動詞句

例文4)と5)は、韓国語では形容詞、自動詞の被動も存在することを示したものである。

4-1) -J1 部屋が広い。

-K1 방-이 넓-다.

pang-i neol-ta.

A-主格助詞 語幹-語尾

-2) -J2 部屋がAに(よって)広がる。

-K2 방-이 A-에 의해 넓-어 지-다.

pang-i A-e ihe neolb-eo ji-da.⁸

名前-被動主格助詞 A-被動相対主格助詞 語幹-被動補助動詞句

5-1) -J1 Aが座る。

-K1 A-가 앉-다.

A-ga an-ta.

A-主格助詞 語幹-語尾

-2) -J2 AがBに(よって)座るようにされる。

-K2 A-가 B-에 의해 앉-히-다.

A-ga B-e ihe anc-hi-da.⁹

名前-被動主格助詞 B-被動相対格助詞 語幹-被動補助語幹-語尾

-K3 A-가 B-에 의해 앉-아 지-다.

A-ga B-e ihe anj-a ji-da.¹⁰

名前-被動主格助詞 B-被動相対格助詞 語幹-被動補助動詞句

このように、形態、使用範囲などから見たところ、韓日両言語の被動態の対照にはかなりの説明が要求される。本研究は、韓日両言語の被動態における類似点と相違点を考察することを目的とする。特に、韓国語の被動態の特徴を中心に、その意味機能はもちろん形態論的な派生過程と統辞論的な構造を明確にする。

2 韓国語の被動態の概要

韓国語の被動態は、大部分の他動詞と形容詞、一部の自動詞¹¹が一定の派生

接辞の添加や補助用言との複合構造によって自動詞化され、被動の意味を遂行する。このうち、能動の語幹に被動補助語幹(自動化接尾辞)이 i, 히 hi, 리 li/ri, 기 ki/gi が付き、被動化されることを形態的被動(または短形被動, 非分離被動)といい、能動の語幹に -(아/어)-(a/eo) (-ように) (副詞化語尾) + 지-다 ji-da (される) (補助用言) が結合し形成された被動を統辞的被動(または長形被動, 分離被動)という。例えば、他動詞 불-다 pul-da (吹く)の語幹 불- pul- にその音韻的環境に合わせて選択された被動化接尾辞 리 li が付くと形態的被動 불-리-다 pul-li-da (吹かれる)になる。それから、-(아/어) 지-다 -(a/eo) ji-da が結合されると, 불-어 지-다 pul-eo ji-da (吹かれる)のように統辞的な被動になる。

このように、韓国語の被動化には二つの装置が使われる。しかし、この二つの被動表現は若干意味の差を見せる。前章の例 1) から見てみよう。

1-2) -J2 名前が A に (よって) 書かれる。

- K2 이름-이 A-에 의해 쓰-이-다.
 ir+m-i A-e +ihe ss + -i-da.
 -K3 이름-이 A-에 의해 써- 지-다.
 ir+m-i A-e +ihe sseo- ji-da.

韓国語の被動文 K2, K3 からは、日本語と同様、被動の意味しか取られない。しかし、これらの被動文から被動相対主語を排除すると、K3 は被動以外に可能の意味も持つことが出来る。これについては、4 章で詳しく考察する。

1-2) -K2 이름-이 쓰-이-다.

ir+m-i ss + -i-da.

名前が書かれる。

-K3 이름-이 써- 지-다.

ir+m-i sseo- ji-da.

名前が書かれる。

名前を書くことが出来る。

被動が不可能なものには、一部の他動詞と形容詞、大部分の自動詞があるが、それらに一定の規則はない。また、形態的被動と統辞的被動を比較すると、統

辞的被动より形態的被动がより広い範囲に適應される。

使動態とは逆に、統辞的被动が形態的被动より適用範囲が狭い理由は、統辞的被动は形としては多く形成できても、その意味が被动ではなく可能になる場合が多いからである。統辞的被动が被动の意味を果たすためには、二重態という過程を踏まなければならない。二重態については、4章で詳しく考察する。反面、形態的被動態にも、その形成において制限があり、すべての他動詞において形成可能なわけではない。例えば, 하-다 ha-da (する) と -하-다 -ha-da (~する) 動詞類 (사랑-하-다 sarang-ha-da (愛する), 연구-하-다 yeongu-ha-da (研究する) など), 주-다 cu-da (与える), 받-다 pat-ta (受け取る) などの受与動詞, 돕-다 top-ta (助ける), 얻-다 eot-ta (得る) などの受惠動詞, 알-다 al-da (知る), 느끼-다 n+ggi-da (感じる), 바라-다 para-da (望む) などの心理経験動詞, 만나-다 manna-da (会う), 닮-다 tam-da (似る) などの対称動詞などは、形態的使動を作れない。また、語幹の末音が 이 i で終わる動詞 (만지-다 manji-da (触る), 지키-다 cikhi-da (守る), 던지-다 teonji-da (投げる) など) は、その末音が音韻的制約条件になり形態的被动が形成できない。この現象は、使動態に適用される。

なお、韓国語の被動態には、上に述べた種類以外に語彙的被动というものがある。例えば, 당하-다 tangha-da (受ける), 받-다 pat-ta (受ける), 입-다 ip-ta (受ける) という動詞の前に一定の名詞が結合されると、被动の意味を持つようになる。¹²

3 韓国語の被動態についての論議

現在まで韓国語の態の研究は、多くなされている。その論点は大きく分けると以下の3点である。

(1) 被動態の範囲と分類¹³

一般的に被動態の種類としては、形態的被动 (短形, 非分離), 統辞的被动 (長形, 分離), 語彙的被动の三種類があげられる。それらのどこまでを被動態と考えるかが問題となるが、それは研究者によって意見が異なる。ある場合には形態的なもののみに限定され、ある場合には統辞的なもののみに限定される。また形態的なものと統辞的なものを併せたものとする見解もあり、形態的, 統辞的, 語彙的なものの全てを態とみる見解もある。

次に、韓国語には二重態（二重被動，使動被動など）が存在するため，その分類も論争の対象となる。まず，態を構成する補助語幹は，形態的に類似したものが多く，音韻的制約による変形も多いので，使動の判定が困難である。また，態の二重化が起これば，意味的にも規定が曖昧になる。

(2) 形態的被動と統辞的被動¹⁴

形態的使動と統辞的使動との交替使用が可能かどうかを検討して，二つの使動が同一かどうかを考察した研究が多い。

(3) 被動と使動の原理¹⁵

大半の従来の研究は，被動と使動を各々の原理で能動から派生される文法範疇として認めているが，変形生成文法理論を導入して，被動と使動を根本的に同一の原理で説明しようとする試みもある。

以上の三つの問題について本稿の立場は次の通りである。

まず，使動態の範囲については，形態的使動と統辞的使動に限定する。語彙的使動は韓国語の語彙体系の断片的特徴にすぎず文法が関与しているとみることが難しい。例えば，교육-당하-다 kyoyuk-tangha-da（教育させる）が 교육-하-다 kyoyuk-ha-da（教育する）の使動であれば，교육하게 시켜 지다 kyoyukhage sikhyeo jida（教育するようにされる）の意味でなければならないが，実際はむしろ 교육받게 시켜 지다 kyoyukpatke sikhyeo jida（教育受けるようにされる）の意味である。このように，語彙的被動というものは，単純な語彙の対応に過ぎず，文法的に一定の意味規則を持った被動態でないことがわかる。

次に，形態的被動と統辞的被動の形成原理における同一性に対しては，それぞれに適応の範囲の差，統辞構造の差，意味の差があるため，両者を異なったものとする。具体的には，統辞的被動は，形態的被動の方より，広い範囲の用言に適応できる。しかし，形成された統辞的被動の意味が被動ではなく可能になる場合が多いため，結果的に，韓国語の被動態は主に形態的被動に任されている。それから，統辞構造から見ても，統辞的被動と形態的被動は，否定素の挿入，二重態の可否などで範囲差を見せる。これは，統辞的使動が二つの用言の結合によるものであり，二つの用言の間にグラフィックポーズ（文字休止；分かち書き）を持っているので，二つの用言の分離性が高いのも原因の一つだと推測できる。しかし，被動態は使動態と違って，統辞構造での差はそれほど大きくない。それにもかかわらず，統辞的被動は，被動の意味が薄くなったり

無くなったりする反面、形態的使動は、限定された範囲の用言にしか適用できなくその数が少ないが、被動の意味を保っている。これは、韓国語の形態的態と統辞的態における、被動と使動との大きい差である。

最後に、韓国語の被動化の特徴は、印欧語の中立被動とは異なり非行動性、脱行動性、状況依存性にあり、使動詞の特徴は、使動主と被使動主が同一の指示対象ではなく、使動主が被使動行為を誘発できる能力を持っていることである。つまり、被動化と使動化は、双方とも能動表現に替われば、二つの主語－述語の構造を持つようになるが、被動主（被動文の主語）が行動力を持っていない反面、被使動主（使動文の目的語）は行動力を持つ。そのため、文の項価的に両者は異なる数を持つようになり、その形成も異なる原理で説明しなければならない。

4 韓日両言語の被動態における相違点

韓国語の被動態と日本語の受身表現との対照において、論議すべき点がいくつかあるが、ここでは形態的被動と統辞的被動、二重被動、形容詞・自動詞の被動の3点に絞って、考察していく。

4-1 形態的な被動と統辞的な被動

韓国語の態には形態的なものと統辞的なものがあり、これらは構造的、意味的に同一のものもあるが、多くの場合差異を見せている。

まず、韓国語の形態的被動と統辞的被動を日本語の「自動詞化」、「他動詞化」と言われる文法現象と関連させて考察しよう。考察の手順は、日本語で「自動詞」－「他動詞」のペアを形成する動詞リスト¹⁶を作り、各ペアの派生関係を考察する。ペアをなす動詞のそれぞれにおいて、主語が主体格として成立しているかを検証する。この検証は、意味構造によって他動詞化と自動詞化を分類するためである。ペアの動詞両方の主語が主体格であれば他動詞化であり、一方のみが成立すれば自動詞化と見る。”本研究で、韓国語との対照対象としたのは、自動詞化した動詞である。日本語の自動詞化による自動詞は、受身の意味を持っているし、自動詞化による自動詞の受身は可能の意味を持っている。韓国語の被動にも形態的なものと統辞的なものがあり、そのうち、統辞的被動は、被動の意味より可能の意味が強いと言われている。こういうことから、日本語の自動詞化・受身との対照から、韓国語の被動の形態別意味が分析出来る

と考えられる。自動詞化の派生方向は、主語が主体格に成立する方を基準にした。¹⁸

〈表1：日本語の自動詞・受身－韓国語の被動〉

他 動 詞	自 動 詞	受 身
あける 열-다 yeol-da	あく 열-리-다 yeol-li-da	あけられる
集める 모으-다 mo + -da	集まる 모-이-다 ¹⁹ mo-i-da	集められる
埋める 묻-다 mut-ta	埋まる 묻-히-다 mut-hi-da	埋められる
かける 걸-다 keol-da	かかる 걸-리-다 keol-li-da	かけられる
切る 자르-다 car + -da	切れる 잘-리-다 ²⁰ cal-li-da	切られる
解かす 풀-다 phul-da	解ける 풀-리-다 phul-li-da	解かされる
抜く 뽑-다 ppop-ta	抜ける 뽑-히-다 ppop-hi-da	抜かれる
載せる 실-다 sil-da	載る 실-리-다 sil-li-da	載せられる
開く 열-다 yeol-da	開く 열-리-다 yeol-li-da	開かれる
浸す 담그-다 tamg + -da	浸る 담-기-다 tamg-i-da	浸される
入れる 넣-다 neot-ta	入る	入れられる 넣-어 지-다 neo-eo ji-da ²¹
消す 끄-다 kk + -da	消える	消される 꺼- 지-다 ²² kk-eo ji-da

他 動 詞	自 動 詞	受 身
高める 높이다 nophi-da	高まる	高められる 높여지다 ²³ nophy-eo ji-da
つなぐ 잇다 it-ta	つながる	つながれる 이어지다 ²⁴ i-eo ji-da
出す 내다 nae-da	出る	出される 내지다 ²⁵ nae- ji-da
外す 빼다 ppae-da	外れる	外される 빼지다 ppae- ji-da
渡す 건네다 keonne-da	渡る	渡される 건네지다 keonne- ji-da
決める 정하다 ceongha-da	決まる	決められる 정해지다 ²⁶ ceongha-e ji-da
加える 더하다 teoha-da	加わる	加えられる 더해지다 teoha-e ji-da
伝える 전하다 ceonha-da	伝わる	伝えられる 전해지다 ceonha-e ji-da

表1から見ると、日本語の自動詞と受身表現は、韓国語では形態的被动と統辞的被动に分かれて現れる。この結果を、日本語の受身表現は被动以外に可能の意味も持っていることと、韓国語の統辞的被动は被动の意味より可能の意味が強いことを考慮しながら考察してみよう。韓国語で形態的被动でしか表せない受身表現は、韓国語で統辞的被动でしか表せない受身表現の方より、可能の意味が強いことが分かる。また、韓国語で統辞的被动でしか表せない他動詞のほとんどは、形態的被动を作れない形態上の制限を持っているものなので、統辞的被动の形で被动の意味としても、可能の意味としても使われる。その反面、韓国語で形態的被动でしか表せない他動詞は、形としては統辞的被动を作れるが、その形は極端な可能の意味として使われる。

整理すると、韓国語には統辞的被动の形しか作れない用言がある。その被动形の意味は被动と、可能である。日本語の自動詞化と受身表現との比較で、受

身表現が強く持っている可能の意味が、それらの動詞では弱くなり、被動の意味として使われる。また、形態的被動を作れる用言の場合、大部分は統辞的被動の形も作れるが、その形は可能の意味を強く持つ。

4-2 形態的な被動と二重被動

韓国語では、形態的被動が統辞的被動という形を借りて、被動を、それも形態的被動とほとんど同じの意味的被動を、生産することができる。それは、二重被動という二重態を使う方法である。韓国語では、態の二重化がよく行われる。この現象は、日本語にもあるもので、使役-受身の複合表現が、その例である。しかし、韓国語の二重態はより複雑な様相を見せる。例えば、被動-使動、使動-被動のように両方向性を持つだけではなく、二重被動、二重使動など同一態の二重化もある。

こういう二重被動を使って、形態的被動を作れる用言が、統辞的な被動の形で、可能ではなく被動の意味を作れる。作る方法は、形態的被動の形に、もう1回統辞的被動をかけるのである。表2で、その具体的な例をあげる。

〈表2：韓国語の二重被動〉

形態的被動	統辞的被動の形	二重被動
あく 열-리-다 yeol-li-da	あけられる 열-어 지-다 yeor-eo ji-da	あく 열-려 지-다 ²⁷ yeol-lyeo ji-da
集まる 모-이-다 mo-i-da	集められる 모-아 지-다 ²⁸ mo-aji-da	集まる 모-여 지-다 mo-yeo ji-da
埋まる 묻-히-다 mut-hi-da	埋められる 묻-어 지-다 mud-eo ji-da	埋まる 묻-혀 지-다 mut-hyeo ji-da
かかる 걸-리-다 keol-li-da	かけられる 걸-어 지-다 keor-eo ji-da	かかる 걸-려 지-다 keol-lyeo ji-da
切れる 잘-리-다 cal-li-da	切られる 잘-라 지-다 ²⁹ cal-la ji-da	切れる 잘-려 지-다 cal-lyeo ji-da
解ける 풀-리-다 phul-li-da	解かれる 풀-어 지-다 phur-eo ji-da	解ける 풀-려 지-다 phul-lyeo ji-da

形態的被動	統辞的被動の形	二重被動
抜ける 뽐-히-다 ppop-hi-da	抜かれる 뽐-아 지-다 ppob-a ji-da	抜ける 뽐-혀 지-다 ppop-hyeo ji-da
載る 실-리-다 sil-li-da	載せられる 실-어 지-다 sir-eo ji-da	載る 실-려 지-다 sil-lyeo ji-da
開く 열-리-다 yeol-li-da	開かれる 열-어 지-다 yeor-eo ji-da	開く 열-려 지-다 yeol-lyeo ji-da
浸る 담-기-다 tamg-i-da	浸される 담-가 지-다 tamg-a ji-da	浸る 담-겨 지-다 tamg-yeo ji-da

表2のように作られた二重被動は、形態的被動と同じく被動の意味を持つ。一方、統辞的被動の形は、被動の意味は薄くなり、主に可能の意味を表す。

形態的被動と二重被動において、意味の差はほとんど見られない。但し、統辞的被動が可能の意味を持っているので、二重被動の被動状態は、能動行為によるものではなく、偶然性がある自発状態としても解釈できる。

4-3 形容詞・自動詞の被動

被動化というのは、基本的には他動詞が被動化を経て自動詞化することである。従って形容詞・自動詞は被動化されにくい。しかし、韓国語では、形容詞も自動詞も被動化ができる。1章での例文から見てみよう。

4-1) -J1 部屋が広い。

-K1 방-이 넓-다.
pang-i neol-ta.

-2) -J2 部屋がAに(よって)広がる。

-K2 방-이 A-에 의해 넓-어 지-다.
pang-i A-e +ihe neolb-eo ji-da.

例4-2)のように、大部分の形容詞は統辞的被動の形を取り、被動化できる。日本語で言えば、「-く／-になる」に該当する表現で、韓国語では被動態の範疇に入る。

自動詞の被動は,³⁰ 形態的被動の形で, 一部分の自動詞に限って行われる。また, 統辞的被動の形は, 大部分の自動詞から作られるが, その形は, 可能の意味が強い。

5-1) -J1 A-가 座-る。

-K1 A-가 앉-다.

A-ga an-ta.

-2) -J2 A-가 B-に (よって) 座-るようにされる。

-K2 A-가 B-에 의해 앉-히-다.

A-ga B-e +ihe anc-hi-da.

-K3 A-가 B-에 의해 앉-아 지-다.

A-ga B-e +ihe anj-a ji-da.

以下の表3は, 自動詞の形態的被動の具体的な例である。

〈表3：韓国語の自動詞の形態的被動〉

能 動 形	形態的被動形	例
飛ぶ 날-다 nal-da	날-리-다 nal-li-da 飛ばされる	나뭇잎-이 날-리-다 木の葉-が 飛ばされる
横になる 눕-다 nup-ta	눕-히-다 nup-hi-da 横にさせられる	환자-가 눕-히-다 患者-が 横にさせられる
回る 돌-다 tol-da	돌-리-다 to-li-da 回される	요리-가 돌-리-다 料理-が 回される
ふくらむ 불-다 pul-da	불-리-다 pul-li-da ふくらまされる	쌀-이 불-리-다 米-が ふくらまされる
座る 앉-다 an-ta	앉-히-다 anc-hi-da 座らせられる	죄인-이 앉-히-다 罪人-が 座らせられる
鳴る 울-다 ul-da	울-리-다 ul-li-da 鳴らされる	종-이 울-리-다 鐘-が 鳴らされる

表3から, 韓国語の自動詞の形態的被動は, 日本語の「迷惑の受身」ではな

いことと、日本語の「使役-受身表現」または「他動詞の受身表現」に該当する。

被動は、被動主 (patient) が行為の意志や能力を持てないという典型的な特徴があることが分かる。しかし、韓国語では、被動文の主格である被動主が能動文の主格である能動主 (agent) である。なお、こういう能動文の主格が被動文の主格になるような被動は、項価が変化しない被動である。この被動を、自動詞が使動化を起こした後、その使動詞がまた被動詞化したものとしてみる意見もある。³¹ この時、使動詞 (形態的使動) から形成された被動詞 (形態的被動) は、形成前の使動詞と同じ形、つまり、ゼロフォーム変化をしたものである。このゼロフォーム変化は、発音上可能であるし、他の文法項目でもしばしば見られる現象である。簡単に図式で表すと、次のようである。

〈能動〉

나뭇잎-이	날-다
namunnip-i	nal-da

木の葉-主格助詞 飛ぶ

↓ 〈形態的使動化〉

바람-이	나뭇잎-을	날-리-다
param-i	namunnip-+l	nal-li-da
風-主格助詞	木の葉-目的格助詞	語幹-使動補助語幹-語尾

↓ 〈形態的被動化〉

나뭇잎-이	바람-에 의해	날리- -다
namunnip-i	param-e +ihe	nalli- -da
木の葉-被動主格助詞	風-対被動主格助詞	語幹-被動補助語幹(ゼロフォーム)-語尾

この意見は、表3のように、日本語の「使役-受身表現」または「他動詞の受身型」と対応して説明できる。しかし、問題点もある。韓国語の形態的な態は、その形成において、制限がある。その制限の一つが、語幹が「i」で終わった動詞は、形態的な態を作れないというのである。その制限によると、使動詞である 날-리-다 nal-li-da, 날-히-다 nup-hi-da, 돌-리-다 to-li-da, 불-리-다 pul-li-da, 앉-히-다 anc-hi-da, 울-리-다 ul-li-da は、「i」で終わっているので、形態的被動の形成が原則的にはできない。

5 まとめと今後の課題

本稿は、韓国語の被動態の概要と論議点、日本語との対照を通じて、考察・解決することを目的とする。

このため、まず、韓国語の被動態の概略を述べ、韓国語の被動態の特徴と論議点をいくつか紹介し、本稿での立場を明らかにする。特に、韓国語の被動態を日本語に受容するときの問題である、形態的被动と統辞的被动、二重被动、形容詞・自動詞の被动などについて対照・分析する。その結果は、次の3点に要約できる。

第一に、韓国語の形態的被动と統辞的被动を、日本語の「自動詞化」と「受身表現」と関連させて考察すると、日本語の「受身表現」が強く持っている可能の意味を、韓国語では統辞的被动が分担していることが分かる。形態上の制限で、形態的被动を作れない用言は、統辞的被动で、被动と可能の意味両方を表している。その統辞的被动に該当する日本語の受身表現も、可能より被动の意味が強い。また、形態的被动ができる用言は、統辞的被动の形も形成できるが、その形は被动の意味より可能の意味が強い。

第二に、形態的被动も、もう1回被动化されると、統辞的被动になり、形態的被动とほぼ同様の被动の意味を持つようになる。これは二重被动という。韓国語にはこういう二重態が多く存在する。特に、二重被动は、韓国語の態の特徴である。形態的被动と二重被动は、その意味から見て、ほとんど差が見られない。但し、二重被动は、主に可能の意味を持つ統辞的被动という形が関与されているので、被动の状態が能動行為によるものではなく、偶然性がある自発状態としても解釈できる。

第三に、韓国語では、形容詞と自動詞も被动化できる。形容詞の被动は、意味的に考察すると被动ではない文法装置で説明する方法もあるが、韓国語では被动の範疇に入っている。韓国語の自動詞の被动は、日本語の「迷惑の受身」と意味を異にし、日本語の「使役-受身表現」または「他動詞の受身表現」と関係がある。この事実から、韓国語の形態的態を形成する際の制限には違反しているが、韓国語の自動詞の被动は、自動詞の使動化の後、使動詞の被动化が起きたものであるという説も妥当性がある。

最後に、本稿で論じ残した問題点をいくつか整理し、将来の研究課題とする。

- ① 言語資料が、記述の簡便化のため、韓国語の形態的態と統辞的な態を日本語の自動詞化と受身表現と対照する時には日本語が基準になり、二重被

動と自動詞の被動を考察する時には韓国語が基準になっている。韓日両言語の全般的な資料を対照整理すれば、より包括的な使動態の範疇関係が明らかになると考えられる。

- ② 韓国語の被動態を日本語へ受容することに焦点を合わせたため、文法モデルや用語が韓国語中心になっている。たとえば、韓国語の統辞的被動とは、実際は日本語の～ヨウニナルの形態までの範囲を包むと思われる。このような文法モデルと、被動-受身、使動-使役、接尾辞-助動詞などの用語問題には、韓日両言語で包括的な提案が必要である。
- ③ 韓国語の被動態の全般的な考察が対照を通じて行われているため、細部的な問題点に対する論理展開が不足している。十分な検討が必要な諸問題が本稿の各部分に提示のみされているので、今後の研究が望まれる。

注

- 1 国語学会(編) (1977)『国語学大辞典』東京堂出版, p. 804参照
- 2 -J は日本語の文, -K は韓国の文を表す。韓国語の文のハイフンは形態区分のため筆者が便宜上付けたものである。
- 3 韓国語の主格助詞は, 가 / 이 の二つの形態がある。前に付く名詞が母音終わりの場合は 가, 子音終わりの場合は 이 を選択する。
- 4 被動文の体言は, 格から見て, 二つの主語を持っている。被動主語は行為に対する対動作主語であり, 被動相対主語は行為をする動作主語である。
- 5 韓国語の被動態のひとつである -(아/어) 지·다 - (a/eo) ji-da は, 前にくる用言の語幹の終わり方により, -- 지·다 - - ji-da, -아 지·다 -a ji-da, -어 지·다 -eo ji-da になる。써·지·다 sseo-ji-da は, 쓰·어 지·다 ss+-eo ji-da が発音上, 変化したものである。
- 6 韓国語の目的格助詞は, 를 / 을 l+l (r+l) / +l の二つの形態がある。前に付く名詞が母音終わりの場合は 를 l+l (r+l), 子音終わりの場合は 을 +l を選択する。
- 7 yeol-da は, 열·어 지·다 yeol-eo ji-da のように, 形態上もう一つの被動が存在しているが, この形態は可能の意味を持つものである。詳しくは4章で考察する。
- 8 낫·다 neol-ta は, 語幹の終わりが ㄴ l と ㅁ p の二つの子音を持っていて, 後に来る語尾の初声の子音の場合は二つの代表音が発音され, 語尾の初声が母音の場合は, 両方とも発音される。
- 9 앉·다 an-ta は, 語幹の終わりが ㄴ n と 스 e/j の二つの子音を持っていて, 後に来る語尾の初声が ㅎ h 音の場合は二つが結合し, 激音に発音(この場合は,

ch) される。

- 10 앉-다 an-ta は、語幹の終わりが ㄴ と 스 c / j の二つの子音を持っていて、後に来る語尾の初声の子音の場合は二つの代表音が発音され、語尾の初声が母音の場合は、両方とも発音される。
- 11 本稿での自動詞、他動詞とは、目的語という文の項価を持っているか持っていないかによる分類である。
- 12 語彙的被動の例は、次のように能動の意味の動詞に対する被動の意味を持つ動詞である。

能動

被動

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 하-다 ha-da (する) | 당하-다 tanha-da (受ける) |
| 例) 소매치기-하-다 (スリ-する) | 소매치기-당하-다 (スリ-受ける) |
| 주-다 cu-da (与える) | 입-다 ip-ta (受ける) |
| 例) 은혜-주-다 (恩恵-与える) | 은혜-입-다 (恩恵-受ける) |
| 주-다 cu-da (与える) | 받-다 pat-da (受ける) |
| 例) 상처-주-다 (傷-与える) | 상처-받-다 (傷-受ける) |

- 13 이상익 Lee, Sang-eok (1970), 송석중 Song, Seok-cung (1980), 이향천 Lee, hyang-cheon (1991), 우인혜 Woo, In-hyeo (1993), 김문오 Kim, moon-o (1997) 参照
- 14 形態的被動と統辞的被動が同義であると主張する論文としては, 이정민 Lee, Ceong-min (1973), 양인석 Yang, In-seok (1974, 1976), 양동휘 Yang, Dong-hui (1975), 손호민 Son, Ho-min (1978) などがあり, 一方意味が異なると主張する論文としては, 柴谷 (1973), 송석중 Song, Seok-jung (1978a, 1978b, 1980), などがある。
- 15 이정민 Lee, Coeng-min (1973), 박양규 Park, Yang-gyu (1978), 양동휘 Yang, Dong-hui (1979), 김한곤 Kim, Han-gon (1982), 이남순 Lee, Nam-soon (1984), 김형배 Kim, Hyeong-bae (1995) 参照
- 16 この分類は, 奥津 (1967) の自動詞化・他動詞化の分類とはその内容が異なる。韓日両言語の対照という観点から, 意味関係を基準とし, 再整理したものである。
- 17 主体格というのは, 述語 (ここでは動詞を対象とする) の行為に対する動作主を意味する。「高まる」と「高める」のペアは, 「高まる」の主語が主体格ではないため, 自動詞化とする。
- 18 「高める」と「高まる」の意味構造を見ると, 「A が B を高める」, 「B が (A によって) 高まる」から分かるように, 「高まる」は「高める」行為の結果としての状態である。この意味関係から, 被動と関連させることが出来る。
- 19 모-이-다 mo-i-da は, 모우-이-다 mou-i-da が, 発音上, 変化したものである。담-가-다 tamg-i-da も同じ変化によるものである。

- 20 잘-리-다 cal-lida は, 자르-리-다 car+ri-da が, 不規則変化したものである。
- 21 넣-어 지-다 neo-eo ji-da の発音は, 語幹의 ㅎ h 音が脱落される。
- 22 꺼-지-다 kkeo-ji-da は, 끄-어 지-다 kk+eo ji-da が, 不規則変化したものである。
- 23 높-여 지-다 nophy-eo ji-da は, 높이-어 지-다 nophi-eo ji-da が, 発音上, 縮略したものである。
- 24 아-어 지-다 i-eo ji-da は, 잇-다 it-ta が, ㅎ脱落の不規則になったものである。
- 25 내-지-다 nae-ji-da は, 내-어 지-다 nae-eoji-da が, 発音上, 縮略したものである。 빼-지-다 ppae-ji-da, 전내-지-다 keonne-ji-da も同じく縮略される。
- 26 정해-지-다 ceonghae-ji-da は, 정하-다 ceongha-da が不規則変化したものである。 더하-다 teoha-da, 전하-다 ceonha-da も同じく不規則になる。
- 27 열-려 지-다 yeol-lyeo ji-da は, 열-리-어 지-다 yeol-li-eo ji-da が, 発音上, 変化したもの(i-eo が yeo に変化)である。以下の二重被動の形は, すべて同じ変化を起こす。
- 28 모-아 지-다 mo-a ji-da は, 모우-아 지-다 mou-a ji-da が, 発音上, 変化したものである。
- 29 잘-라 지-다 cal-la ji-da は, 자르-아 지-다 car+a ji-da が, 不規則変化したものである。
- 30 日本語にも自動詞の受身表現が存在するが, それは「迷惑」という間接的な意味があり, 韓国語の自動詞の被動とはその内容を異にする。
- 31 임홍빈 Im, Hong-bin (1978), 이익섭 Lee, Ik-seop, 임홍빈 Im, Hong-bin (1986), 参照

参考文献

- 김문오(1997) 국어 자타 양용동사의 의미구실 연구 「國語學」 30
 - (1996) 양용동사와 사/피동 대비 연구 「어문학」 7
- 김석득(1979) 국어의 피사동 「언어」 4-1
- 김인화(1989) 국어 태 일반에 관한 소고 「대학원논문집」 2 이화여자대학교 대학원
- 김한곤(1982) CAUSE as the Deep Semantic Source of So-Called "Causative" and "Passive"
 「語學研究」 18-1
- 김형배(1995) 현대 국어 피동사 파생 조건 「대학원 학술 논문집」 40 건국대 대학원
- 박양규(1978) 使動과 被動 「國語學」 7
- 손호민(1978) 긴 形과 짧은 形 「語學研究」 14-2
- 송석중(1978a) 使動文의 두 形式 「언어」 3-2
 - (1978b) Causes of Confusion in Description of Causatives in Korean.
 Kim, Jinwoo(ed) *Papers in Korean Linguistics* Columbia : Hornbeam Press inc.

- (1980) Perception or Reality / Korean Causatives Reexamined,
Korean Linguistics 2
- 양동휘(1975) Semantic Constraints 「『語學研究』11-2
- (1979) 국어의 피·사동 「한글」166
- 양인석(1974) Two Causative Forms in Korean 「語學研究」10-1
- (1975) Lexical Causations in Korean 「語學研究」11-1
- (1976) Semantics of Korean Causation *Foundation of Language* 4-1
- 우인혜(1993) 국어의 피동법과 피동표현의 연구 한양대 박사학위논문
- 이남순(1984) 사동과 피동의 문형 「國語學」13
- 이상익(1970) 國語의 使動·被動構文研究 「語學研究」26
- (1972) 動詞의 特性에 對한 理解 「語學研究」8-2
- (1980) 使動·被動語幹形成에 대한 多角的 考察 「語文論集」21
- 이익섭, 임흥빈(1986) 「國語文法論」 學研社
- 이정민(1974) *Abstract Syntax and Korean with Reference to English* 법한서적
- 이향천(1991) 피동의 의미와 기원 서울대 박사학위논문
- 임흥빈(1978) 國語被動化의 意味 「震壇學報」45
- Shibatani, M. (1973) Lexical versus Periphrastic Causatives in Korean,
Journal of Linguistics 9
- 李文子 (1979) 朝鮮語の受身と日本語の受身 (その1) 「朝鮮學報第」 91
- 鄭秀賢 (1987) 現代日本語と韓国語の受身・使役表現 「論集日本語研究 (一) 現代編」
- 丁一榮 (1985) 韓・日兩言語における「態」の比較研究 「韓日比較文化研究」 1
- 大村益夫 (1979) 日本語・朝鮮語の表現について-受身と使役- 「講座日本語教育」
15
- 奥津敬一郎 (1967) 自動化・他動化および兩極化転形-自・他動詞の対応- 「国語学」 70
- 影山太郎 (2002) 動詞意味論を超えて 「言語」 31-12
- 金谷武洋 (2002) 『日本語に主語はいらない』 講談社
- 国語学会 (編) (1977) 『国語学大辞典』 東京堂出版
- 田中春美ほか (編) (1988) 『現代言語学辞典』 成美堂